

水俣市SDGs未来都市計画（素案）についてのパブリック・コメント

実施結果及び市の考え方について

「水俣市SDGs未来都市計画（素案）」について、市民の皆さまからの御意見等を募集しましたが、寄せられました御意見等とこれらに対する市の考え方を下記のとおり掲載いたします。御意見をお寄せいただきありがとうございました。

記

1 募集期間

令和7年11月1日（土）～令和7年11月14日（金）

2 閲覧場所

市役所1階階段前、市役所3階行政資料閲覧コーナー、もやい館2階受付前、総合医療センター、図書館、おれんじ館、愛林館、湯の鶴温泉保健センター

3 御意見等総数（意見等提出者数）

提 出	0 件（0 人）
郵 送	7 件（1 人）
F A X	0 件（0 人）
Eメール	0 件（0 人）
計	7 件（1 人）

4 御意見等の取り扱い

意見等を踏まえ、素案を修正・追加補足するもの	2 件
今後の取組の参考とするもの	5 件
上記のどちらでもないもの	0 件

1 パブリック・コメント意見等に係る市の考え方

No	ページと項目名	意見等の概要	市の考え方
1	【ページ】 【項目】	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の点が不足している。 1 SDG s についての説明と意義を記す。 (例) 世界は様々な問題に直面している。そうした問題を解決するために、国連が 2030 年までの国際目標として定めたのが「SDG s」です。「SDG s」とは「Sustainable Development Goals」の略称です。これは「17 の目標」と「169 のターゲット」を一人一人が持続的に努力し、2030 年までに解決しようとするものです。 2 市民への周知 各機会、場所、広報等で SDG s の必要性を知らせる。 	<p>1 SDG s に関して以下のとおり注釈を追加しました。 SDG s :「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2015 年に国連で採択された 2030 年までに達成すべき国際目標のこと</p> <p>2 本計画について、市ホームページで周知いたします。</p>
2	【ページ】 P 2 【項目】 水俣病の経験と地域再生の実践	<p>「過去に学び、現在を知り、未来を考える」まさに温故知新であるが、その事が大事である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣は過去、高度経済成長期に発生した「四大公害」(水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく)の一つに苦しまれ、今も苦悩している人たちがいる。 ・その水俣の海は、現在は「安全宣言」がなされ、きれいな健康な海になる。 ・その環境の下、市内の子どもたち、学生は勉学にスポーツに励んでいる。 ・かつては茂道山にキャンプ場、遊び場等あって教育活動、体力増強を行っていた。 ・将来に向けて、その場所で、スポーツ活動、体力増強、教育活動(海の歴史、SDG s)を行う。施設を作り、市内外から訪れ、漁業者の協力で船釣り等の観光誘致をしたらいいと思う。 	<p>いただいたご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。</p>
3	【ページ】 P 4、P 9 【項目】 産業構造、水俣温泉プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・100 周年となる「湯の児」と湯の鶴を結びつけた「観光モデル構築」とある。 ・しかし「湯の児景観」の点で、旧旅館山海館が廃墟と化し、まだ残っている。 ・かつては JR 等と指定旅館としても栄えていたが、現在は湯の児入り口の下にあり、観光客の訪れた場合、印象が良くない。 ・したがって、当館を改修するか、撤去したほうが良いのではないか。 	<p>旧山海館の動向については今後も情報収集に努めていきます。</p>

4	<p>【ページ】 P 1 1</p> <p>【項目】 ⑧ごみの分別適正化と減量</p>	<p>2008 年、地球温暖化問題に先駆的に取り組む自治体として、持続的な低炭素社会を目指す「環境モデル都市」として国から水俣市は指定された。</p> <p>【地域での取組】 その一環として、市内各地域でゴミステーション（地域負担）を設置したり、月 1 回のリサイクル活動を行っている。 当地区では、4 世帯ごとにチームを作り毎月交代で分別、回収を行っている（現在 23 分別）。 しかし近年、高齢化が進み登板をやめる世帯が多くなった。（高齢化で一人暮らし） 毎月、中学生が 2 名程度づつ手伝いに来ているが 2030 年度はさらに高齢化が進むので対策を考えてほしい。</p>	<p>高齢化が進む中で、ごみ分別については課題があると認識しており、今後も収集、分別方法等について検討を行ってまいります。</p>
5	<p>【ページ】 P 7, P 1 5</p> <p>【項目】 将来像のイメージ、地域を担う人材の育成</p>	<p>1992 年の地球サミットで「気候変動枠組条約」が締結された。1997 年には京都會議 C O P 32「温室効果ガス削減の具体的目標」が「京都議定書」に定められた。 それから 30 年を経た現在、夏は猛暑日の連続、線状降水帯による豪雨、強大化する台風、それらによる人的、農産物被害が多発している。まさに危機的状況になっている。 以上のことから最近になって、やっと世界的に「地球温暖化」に市民の関心が寄せられるようになった。 水俣市に於いても「温室効果ガス排出の削減目標」を策定して、2030 年には 50%（2013 年基準）を削減するとの目標を設定している。 部内別（産業、運輸、家庭）の削減目標の割合はどうなっているか。 我々家庭が行う行動としては節電、アイドリングストップ等が考えられるが 1 人 1 人の意識づけが大事と考える。 そこで参考として、「東京商工会議所」が実施している「eco 検定（環境検定）」を取得したらどうだろうか。 ぜひ、市職員から一般市民まで推奨いただきたい。 （投稿者は取得済）</p>	<p>部門別（産業、運輸、家庭）の削減目標は、個別には設定しておりませんが、2030 年に 50%を削減するという目標（2013 年基準）を設定する根拠を、次の計画に記載しております。この中で、部門別の取組についても記載しております。</p> <p>・「水俣市環境モデル都市第 3 期行動計画（水俣市地球温暖化対策推進実行計画（区域施策編））（令和 5 年 3 月）」P13～P18</p> <p>https://www.city.minamata.lg.jp/kankyo/kiji00372/3_72_13761_up_8mejkqyb.pdf（水俣市環境モデル都市第 3 期行動計画（水俣市地球温暖化対策推進実行計画（区域施策編））の URL です。）</p> <p>市民 1 人 1 人の意識づけについて、いただいたご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。</p>
6	<p>【ページ】 P 9, P 1 5</p> <p>【項目】 スポーツを通した人材育成</p>	<p>・市内では、小学校、中学校、高校そして一般市民が種々のスポーツにいそしんでいる。 ・私も学生時代は野球そして空手道他に楽しんでいた。今はゴルフを楽しんでいる。 ・水俣の女子サッカーチーム（水俣ユニオン）とタイアップした、スポーツ及び環境教育で人材育成 ※水俣には水俣ユニオンが設立されている。当チームと小学生、中学生、高校生との練習試合をする。または親睦会をする。 それによって、人とのふれあい、スポーツ向上、環境（SDGs）教育、情操教育になり、将来の水俣を担う若者が育つものと信じています。</p>	<p>いただいたご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。</p>

7	<p>【ページ】 P 1 6</p> <p>【項目】 ⑦水俣市における温室効果ガス削減</p>	<p>国際社会、国内で削減目標を定めてある。 ※水俣市全体の温室効果ガス削減率と量を下記の様に定めてある。</p> <table><tr><td>ゴール</td><td colspan="2">2013 年（排出量 256582 t）を基準とする。</td></tr><tr><td>7</td><td>2024 年 32.4% （排出量：117,553 t）</td><td>2030 年 50% （排出量：128,291 t）</td></tr></table> <p>上記で、2024 年の削減率が 32.4%なら 256,582 t - $\frac{(256,582 \times 0.324)}{\text{削減量}}$ = 173,449 t となり、排出量は 173449 t ではないか。</p>	ゴール	2013 年（排出量 256582 t）を基準とする。		7	2024 年 32.4% （排出量：117,553 t）	2030 年 50% （排出量：128,291 t）	<p>数値に誤りがありました。2025 年から本市における排出量の推計方法が変わり、把握可能な最新の数値は以下のとおりとなります。</p> <table><tr><td>ゴール</td><td colspan="2">2013 年（排出量 256582 t）を基準とする。</td></tr><tr><td>7</td><td>2022 年 45.3% （排出量：140,273 t）</td><td>2030 年 50% （排出量：128,291 t）</td></tr></table> <p>上記で、2022 年の排出量が 140,273 t なので、 (256,582-140,273) ÷ 256,582 = 0.45330148 となり、削減率は 45.3%となります。</p>	ゴール	2013 年（排出量 256582 t）を基準とする。		7	2022 年 45.3% （排出量：140,273 t）	2030 年 50% （排出量：128,291 t）
ゴール	2013 年（排出量 256582 t）を基準とする。														
7	2024 年 32.4% （排出量：117,553 t）	2030 年 50% （排出量：128,291 t）													
ゴール	2013 年（排出量 256582 t）を基準とする。														
7	2022 年 45.3% （排出量：140,273 t）	2030 年 50% （排出量：128,291 t）													